

リーディング力向上のためのリスニング指導（第2報）

安宅邦光*・堀 登代彦**

An Attempt to Improve the English-Reading Ability for Practical Use (2nd Report)

Kunimitsu ATAKU, Toyohiko HORI

Abstract

This paper is a report of our attempt in the third-year English classes to improve their ability in English reading. Many Japanese learners are liable to translate English sentences into Japanese. This prevents them from understanding texts smoothly and quickly. We had the students listen to English texts many times. In this case they cannot help grasping the meaning of each sentence from top to tail without translating. If this way of understanding is applied to reading, they will make great progress in reading English texts.

1. はじめに

今回のレポートは、昨年度私たちが本校紀要第33号に記した『リーディング力向上のためのリスニング指導』の続編となるものである。今年度の実践報告に入る前に、昨年度に上記の研究授業実践を開始する時点で私たちが考えていたテーマおよびコンセプトを、もう一度簡単に述べておきたい。

どの言語においても、ことばは文字としてよりも音声としてまず存在していたし、子供が自分の母語を習得する際も、文字としてよりも音声として学んでいく割合の方がずっと高い。それが人間の言語習得の自然な形だろう。従って、ある程度の年齢に達してから開始される外国語の習得においても、音声を通してその言語を学ぶことは非常に重要なはずである。（ただし、ネイティブ・スピーカーのように四六時中その言語に浸っていることはできないので、学習効率という点からも、文法の学習や文字テキストを通しての学習も必要ではある。）

ネイティブ・スピーカーも年齢が上がるにつれて、語彙的、文構造的また内容的に、より難しい母語の文章を読む機会が増えてくる。そして、そ

の頃までには既に彼らの頭の中には、音声としての言語を理解する認知装置が十分に出来上がっている。従って、書かれた文章を黙読する時、その文章の持つ音声を頭の中かどこかで響かせながら読み進めているに違いない。そのような、音にならない音の響きからも、テキストの意味内容をイメージし理解できる有利さを持っている。

ところが、音声を用いたインプットが十分にされていないノンネイティブの学習者が外国語の文章を読む時、彼らの頭の中ではその文章の音声十分に響かないため、また十分に響いたとしても音声と意味の結び付きが乏しいため、ネイティブのようにスムーズに意味内容を理解することは難しい。つまり、外国語を外国語として理解できない。

すると、どうしても学習者の母語に置き換えて理解しようとする。個々の単語を置き換えるだけならまだいいのだが、語順まで入れ換えてしまうと、いよいよ翻訳が始まる。その最も典型的な例が、日本人の英語学習に伝統的に存在し続けている文法訳読式の返り読みである。

各言語にはその言語に特有の文法に基づく語順がある。その文法（語順）は、そのネイティブのものの方や考え方と切っても切り離せない。従って、その語順による文章の流れに乗った時が、その言語を最もよく理解できる時であろう。その流れに逆らって、外国語を自国語の土俵に引きずり込むことは、結局はその言語によって表現され

* 助教授 一般教科

** 講師 一般教科

た思考や感情や情報を、ありのままに十分には享受できないということである。

このような考えから、英語を英語の自然な流れのままに理解できる力を学生につけさせたいと思ったのが、私たちのこの授業実践の出発点であった。文字だけで英文テキストを読ませると、どうしても英文を日本語の語順に置き換えてしまう。そこで音声を十分に活用して、テキストを聞いたら即座に意味内容を聞いた順に理解できるようにするのである。

リスニング学習からふつう思い浮かべるのは、いわゆる英会話的な日常の実践的な場面での英語の聞き取りか、あるいは英語のニュースや洋画のセリフや洋楽の歌詞の聞き取りなどであろう。だが私たちが意図しているのは、ある程度の分量とまとまった内容を持つ英文テキストを、もっと楽に自然にそして正確かつスピーディーに読む力をつけさせることを目的としたリスニング学習である。

2. 昨年度の研究実践とその反省点

昨年度の研究実践では、シドニー・シェルダン作の12の連作短編集「百万ドルの宝くじ」からの3編を中心的な教材として使用した。その際、始めはスクリプトを与えずに音声テープだけから内容理解をさせた。これをワークシートを用いたテスト形式（各パートと全体の要約）で行い、回収採点后に返却した。そこで初めてスクリプトも配布して、今度は目と耳の両方を使って、ストーリー内容の再確認を行なわせた。その結果いくつかの問題点が明らかになった。

第1に、音声だけを頼りに理解するにはテキストの英文が少々難しかったことである。多くの学生にとって難しいと思われる語彙には、ワークシート上に訳語を書き添えておいたが、それだけでは十分でなかった。

また、副詞節や関係詞節あるいは分詞構文によって修飾部分が長くなった文章や、複合時制や仮定法的表現によって述語動詞部分が複雑化した文章が、ナチュラルなスピードで読まれるため、学生の内容理解が音声の速さについていけない場面も多かった。アンケート結果でも、その点を多くの学生が指摘していた。

2番目の問題点は、始めからいきなりテスト形式のリスニングを行い、しかも1話全体で約17分かかかる音声テープを、途中1度の中断も入れずに、

一気に流してしまっただけである。これによって、話についていけずに、途中で諦めてしまったり集中力が切れてしまった学生がかなり出た。一部には眠ってしまった学生も見受けられた。実際アンケートでも、長すぎて疲れた、わからなくて途中でいやになったと書いた者が結構いた。

英文の音声テープを聞いている間の集中力維持の問題に関して、これらの結果から考えたことがある。文字テキストを目で追いつながりの聞き取りでは、感覚器官は目と耳の両方が働いているので、その点だけからも耳だけの時より覚醒状態は維持しやすい。また目と耳の両方を使った方が、テキストの内容理解も進むことが多いので、流れている音声から意識を離脱させることも少なく、従って集中力をより強く維持できる。

もしこれが、1.の最後に述べたような普通の意味でのリスニング学習であれば、英文スクリプトを始めから見てしまうのは、あまり良い方法とは言えないかもしれない。目標として想定されている現実の場面では、文字は現れず、耳で聞いた音声だけからメッセージを理解しなければならぬからである。

だが私たちが今回目的としているのは、英文リーディングの力を伸ばすことの方である。そのための手段としてリスニングを利用する。従って音声だけでということに固執せずに、文字テキストを目で追いつながら音声テキストを聞いていく方法も、かなり効果のある学習法ではないのだろうか。音声の流れに沿って英文テキストを、左から右へまた上から下へ目で追いつながら、同時に意味内容を理解していくことになるからである。

3. 使用教材について

3.1 使用教材

今回の授業実践を進める際に、中心的な教材として私たちが利用したのは、Oxford University Pressから出版されている、Oxford Bookwormsの“BLACK SERIES”という洋書の副読本（サイドリーダー）である。このシリーズは現在までに100冊近くが刊行されており、今後も継続的に刊行される予定である。

Oxford Bookwormsには、子供向きの物語を収めた“GREEN SERIES”や、ノンフィクションものを収めた“FACTFILES”などもあるが、この“BLACK SERIES”は大人が呼んで楽しめる幅広いジャンルの小説を収めている。

外国人の英語学習者用に平易な英文で書かれた副読本のシリーズは、他にもいくつかの出版社から刊行されているが、私たちが Oxford University Press のこのシリーズを選択した理由として以下のような特徴があげられる。

3. 2 使用教材の特徴【資料1】

- (1) 使用される語彙や文法（構文）項目によって、6つのレベル（ステージ）に分けられている。
- (2) 朗読カセットテープが出ているものも多い。
- (3) オリジナルまたは日本であまり知られていない小説も多く含まれている。
- (4) 幅広いジャンルの小説を収録し、興味深い内容のものも多い。
- (5) 挿絵のイラストが美しい。
- (6) 巻末に語彙解説と練習問題がついている。
- (7) 指導用補助教材も充実している。

学習者にとって平易な英文を、多量にしかも聴覚的にインプットするという私たちの意図に合っているのが、(1)と(2)の特徴である。最も易しいレベルである Stage 1 は基本400語で書かれている。使用される文法項目は、現在形、現在進行形、過去形、単純な動名詞、be going to の未来形、命令文、そして can と must の助動詞のみである。基本700語の Stage 2 においても、過去進行形、will の未来形、現在完了形、比較級、付加疑問文、ask & tell + 不定詞、そして助動詞の must not, (don't) have to, could が Stage 1 に加わるに過ぎない。

また、教材として使用される物語の内容を学習者がすでに知っているならば、私たちの今回の試みはあまり意味のないものになってしまう。学習者にとって未知の物語だからこそ、その展開を何とか理解しようと流れてくる英語の音声に耳をすますわけだ。(3)の条件を満たしたものが数多く入っている副読本のシリーズは案外少ない。

さらに(4)(5)の特色は、英語学習への動機づけを強める。学習者にとってストーリーがおもしろければ、先へ先へと読み続け、その物語がどんな展開そして結末になるのかを早く知りたくなるだろう。その時にはもはや、英語の勉強をしているというより単におもしろい話を夢中になって読んでいると言えよう。

(6)(7)のような理解度確認のためのタスクが備えられていることも、学習効果をいっそう高める。とりわけ(7)の指導用補助教材はすばらしい。懇切丁寧な教師用指導書、遊び感覚に満ちたアクティビティー・ワークシート、そして精緻に作られたコピーフリーのテスト問題が用意されている。

3. 3 使用テキストのストーリー紹介

この BLACK SERIES には、読み手の心を強く引きつけずにはおかない、スリリングでミステリアスで感動的な物語が多数収められている。今回私たちが授業で用いた2冊、“The Monkey's Paw”と“Dead man's Island”のストーリーの概略を、洋書テキストの裏表紙に書かれたキャッチコピーとともに紹介しておく。

3. 3. 1 The Monkey's Paw (猿の手)

Outside, the night is cold and wet. Inside, the White family sits and waits. Where is their visitor? There is a knock at the door. A man is standing outside in the dark. Their visitor has arrived. The visitor waits. He has been in India for many years. What has he got? He has brought the hand of a small, dead animal — a monkey's paw. Outside, in the dark, the visitor smiles and waits for the door to open.

サイコホラーの傑作。インドから英国に持ち込まれた猿の手。3つの願いをかなえてくれるものだが、所有者には必ず悲惨な運命が襲いかかる。この呪われた猿の手が、幸せに暮らすホワイ特一家の手に渡った。大金を望む第1の願いは間もなくかなえられた。むごい出来事とワンセットで。第2の願いは、更に恐ろしい展開を生む。恐怖と緊迫感に満ちたラストの場面、第3の願いをかけるシーンが圧巻である。映画化したら、さぞかし怖い作品に仕上がるのでは。

3. 3. 2 Dead man's Island (死んだ男の島)

Mr Ross lives on an island where no visitors come. He stops people from taking photographs of his. He is young and rich, but he looks sad. And there is one room in his house which is always locked. Carol Sanders and her mother come to the island to work for Mr Ross. Carol soon decides that there is something very strange about Mr Ross. Where did he get his

money from? How can a young man buy an island? So she watches, and she listens — and one night she learns what is behind the locked door.

人に絶対知られたくない秘密を持っている時、英語では「食器棚に骸骨を隠している」と言う。この物語の主人公キャロルも自分の「骸骨」に苦しんでいたが、ある時「骸骨」を隠すのに丸ごと1個の島を必要とする謎の人物ロス氏に出会う。鍵のかかった秘密の部屋に、その謎は隠されていた。ついにこの部屋に侵入したキャロルは、そこでロス氏の驚くべき過去を知る。読み終わった時に、しみじみとした不思議なカタルシスが味わえる上質のミステリー。

4. 授業方法

平成11年度第3学年全5クラスの英語A（4単位）の授業において、2名の教官により、6月下旬から夏休み期間も含めて11月中旬までの間に、次のA～Cの3つのタスクが実施された。

また、リーディング力をためす実力問題を、毎回の定期試験の中に30点配点で入れた（試験時間を従来の50分でなく70分とした）。

4. 1 全体の流れ

4. 1. 1 授業時のリーディング学習

A. The Monkey's Paws 【資料2】

- ・ Oxford : BLACK SERIES Stage 1
- ・ 6月下旬～7月上旬、約8時間配当

B. Dead man's Island 【資料3】

- ・ Oxford : BLACK SERIES Stage 2
- ・ 夏休みの課題
- ・ 夏休み明けに確認テスト実施【資料4】

C. The Ghost and the Dreaming Lady 【資料5】

- ・ 教科書 : Rapid Reading 1
- ・ 10月下旬～11月中旬、約10時間配当
- ・ 後期中間試験にも出題

4. 1. 2 定期試験時のリーディングテスト

I. 前園真聖のブラジルでのサッカー修行 (前期中間試験)

II. ロンドンで寿司をにぎる日本人女性 (前期期末試験)

4. 2 授業の詳細

4. 2. 1 The Monkey's Paw

『リーディング力向上のためのリスニング指導』

という意図を実現させるために、主に次の2通りの形で授業を行なった。第1の方法は、文字テキストなしで、朗読テープの音声だけから物語内容を理解させるやり方。第2の方法は、朗読テープの音声を耳で聞きながら、同時に文字テキストの方も目で追わせるやり方。どちらの場合にも、内容理解度をためす設問の書かれたワークシートを配布して、解答を記入させる。

この小説の分量は、1ページ26行の洋書副読本で39ページ。ただしイラストがふんだんに盛り込まれているため、実際の文章量は約3分の2の26ページ程度である。また朗読テープの録音時間は約40分。

全体を5つのパートに分けて、それぞれに1枚ずつのワークシートを用意する。設問は、内容に関するQ & A（英問和答または和問和答）、数パラグラフずつの要約、そして内容説明などである。設問では瑣末なことは問わないで、物語進行上重要なポイントについてチェックする。

学生が記入したワークシートへのフィードバック方法としては、その場でストーリーの確認をしながら答え合わせをする場合と、テスト形式として回収採点する場合があった。学生の理解度を把握するため、また授業への緊張感を持続させるため、1回おきにテスト形式を採用した。

4. 2. 2 Dead man's Island

夏期休業中の課題として、この小説が印刷された英文テキストと設問入りのワークシートを配布。朗読テープなしの純粋なリーディング形式のタスクとして実施。ワークシートは夏休み明けに提出させる。

ワークシートの設問は、①10名の登場人物に関してわかったことを書かせる問題。②物語中に頻繁に現れる謎めいた場面の真相を書かせる問題（7題）。③それまでの謎が解ける最終章の内容説明問題（4題）。これらの設問に答えることで、このミステリー小説の謎解きができる仕掛けになっている。

テキストのレベルは、“The Monkey's Paw”よりも1ランク上がったStage 2。このレベルでもまだ十分、英文の流れのままに前から後ろへ「聞く」ように「読む」ことができると判断したからである。

この小説の分量は、“The Monkey's Paw”と同じく39ページ（1ページ当たりの行数も同じ）。イラストのスペースを差し引くと、こちらも正味

26ページ程度である。

確認テストは夏休み明け2週目の、各クラスの英語Aの授業時に40分間で行なわれた。試験問題の他クラスへの漏れを最小限にとどめるため、連続する2日間に集中させて実施した。

この確認テストを作成する際、3. 2の(7)にあげた指導用補助教材（Activity Worksheets）の中のイラストによる理解度確認問題を活用した。イラストを使った問題はその他にもう1題出題。その他には、物語冒頭より、数パラグラフずつから成る5つの文章群の整序問題。そして物語結末部の内容に関する英問和答のQ & A。

4. 2. 3 The Ghost and the Dreaming Lady 使用教科書の速読用の課（Rapid Reading）を利用した「リーディング力向上のためのリスニング指導」の試みである。

この教科書の他の課が4～5ページで成り立っているのに対し、このRapid Reading 1の“The Ghost and the Dreaming Lady”だけは12ページと非常に長い（速読用の課なので語彙・文法レベルとも他の普通の課よりは易しい）。これを8つのパートに分ける。1～4を前半、5～8を後半として、前後半ともに1枚ずつのワークシートを用意した。ワークシートの設問は、各パート3～4題ずつの英問和答のQ&Aのみ。

授業方法は、基本的には4.2.1 The Monkey's Pawの時と同じである。違いは、このテキストが“BLACK SERIES”の二作と比べて、語彙・文法レベルともかなり高いということ。従って、音声による聞き取り理解のウェイトは減少し、教科書に書かれた文字テキストを語順通りに追って意味理解する方が中心となった。

また、関係詞や接続詞の入った複雑な文（全体で5か所ほどしかなかったが）については、節ごとに入るスラッシュの位置を確認してチャンクごとの意味の取り方を解説した。

さらに、単語の小テストだけは他の課の時と同様な形で頻繁に実施した。

そして後期中間試験に、この物語の課を40点分の配点として出題した。設問内容は、授業時に使用したワークシートの英問和答のQ & A、内容に関する説明、単語に関する問題（意味、綴り、発音など）である。

なお、この物語の内容は偶然にも、前述の2作と同様ミステリー仕立てになっており、“BLACK SERIES”に入れても遜色のない傑作だ

と思う。簡単にその内容を紹介しておく。

現代アメリカの中西部に暮らす中年夫婦。ある日、妻はイギリスの田舎の風景写真を見て、ある記憶を呼び覚まされる。夢の中にも毎晩、その風景や見知らぬ屋敷が出てくる。数カ月後その夫婦はヨーロッパ旅行に発つ。イギリスに着くと妻は突然、夢で見た屋敷への道順を直観し、夫に車を走らせる。その屋敷には夢で見た執事や女中が実在していた。彼らの方も、毎晩幽霊として屋敷内に出没していた女性が今、本当に姿を現したのを見て驚愕する。そして夫は、奥の部屋の肖像画に妻とそっくりの女性を発見して驚き、妻を呼ぶが、妻の姿は消えてしまっていた。夫は一人でアメリカへ帰り、イギリスの知人にその屋敷を探らせるが、すでに屋敷は住人もろとも消えてしまっていた。その後まもなく夫は死ぬ。数カ月後、夫の別の友人は彼から預かっていた1枚の写真を見て驚く。例の屋敷の前で写っていたはずの妻の姿が、その写真から消えていたのである。

この物語は、アイルランド人女性歌手のエンヤが歌った「大理石の館」（Marble Halls）という曲（この物語の内容が象徴的な形で歌詞化されている）によって、10年ほど前にヨーロッパ中に広まった。いわゆる都市伝説と呼ばれる種類の物語である。

【資料1】

THE TITLES

Stories for all interests

Classics

Stage 3	The Picture of Dorian Gray [A+]
	Ethan Frome
Stage 4	Cranford [new]
	Lord Jim
	Silas Marner
	Washington Square [new]
Stage 5	David Copperfield [A+]
	Far from the Madding Crowd [A+]
	Great Expectations [A+]
	Wuthering Heights [A+]
Stage 6	Jane Eyre [A+]
	Oliver Twist [A+]
	Pride and Prejudice [A+]
	Tess of the d'Urbervilles [A+]

Thriller/Adventure

Stage 1	Christmas in Prague [new]
	Goodbye Mr Hollywood [A+]
	The President's Murderer
	White Death
Stage 2	Dead Man's Island [A+]
	Ear-rings from Frankfurt
Stage 3	Chemical Secret [A+]
	Justice
	Skyjack! [A+]
	Wyatt's Hurricane
Stage 4	The Moonspinners
	Mr Midshipman Hornblower
	Reflex
	The Thirty-nine Steps [A+]
Stage 5	Brat Farrar
	This Rough Magic
Stage 6	The Enemy
	Night Without End

Crime and Detection

Stage 1	The Lottery Winner [new]
	Love or Money? [A+]
Stage 2	Death in the Freezer
	Sherlock Holmes Short Stories [A+]
Stage 3	As the Inspector Said... [S]
	The Last Sherlock Holmes Story
Stage 4	The Big Sleep
	Death of an Englishman
	The Hound of the Baskervilles [A+]
Stage 5	The Dead of Jericho
	Deadlock
	King's Ransom
Stage 6	American Crime Stories [S] [A+]
	Deadheads

Horror/Ghost Stories

Stage 1	The Monkey's Paw [A+]
	The Phantom of the Opera [A+]
Stage 2	Dracula [A+]
	The Mystery of Allegra
	Voodoo Island [A+]
Stage 3	Frankenstein [A+]
	Tales of Mystery and Imagination [S] [A+]
Stage 4	Dr Jekyll and Mr Hyde [A+]
	The Unquiet Grave [S]
Stage 5	Ghost Stories [S] [A+]

Science Fiction

Stage 1	Under the Moon
Stage 2	Return to Earth
	The Year of Sharing
Stage 3	The Star Zoo
Stage 4	The Songs of Distant Earth [S]
Stage 5	Do Androids Dream of Electric Sheep?
	I, Robot [S]
Stage 6	Meteor [S]

**True Stories**

Stage 1	The Coldest Place on Earth [A+]
	The Elephant Man [A+]
	Mary, Queen of Scots
	Mutiny on the Bounty
	The Witches of Pendle [A+]
Stage 2	Agatha Christie, Woman of Mystery [new]
	The Death of Karen Silkwood
	Grace Darling
	Henry VIII and his Six Wives
	The Love of a King
	William Shakespeare
Stage 3	The Brontë Story
Stage 4	Desert, Mountain, Sea [S]
Stage 6	Cry Freedom

Films

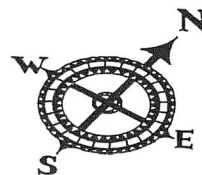
Stage 1	The Elephant Man [A+]
	Mutiny on the Bounty
	The Phantom of the Opera
Stage 2	The Death of Karen Silkwood [A+]
	Dracula [A+]
Stage 3	Love Story [A+]
Stage 4	The Big Sleep
	Dr Jekyll and Mr Hyde
	The Thirty-nine Steps [A+]
	Washington Square [new]
Stage 5	Do Androids Dream of Electric Sheep?
	Far from the Madding Crowd
	Great Expectations
	Heat and Dust
Stage 6	Cry Freedom
	Jane Eyre

Human Interest

Stage 1	One-Way Ticket [S] [A+]
	Remember Miranda
Stage 2	New Yorkers [S] [A+]
	The Piano [A+]
Stage 3	Ethan Frome
	Go, Lovely Rose [S]
	Love Story
	Tooth and Claw [S]
Stage 5	The Bride Price
	The Garden Party and Other Stories [S] [new]
Stage 6	Dublin People [S]

Humour

Stage 2	New Yorkers [S] [A+]
	Stories from the Five Towns [S]
Stage 3	Tooth and Claw [S]
Stage 4	Three Men in a Boat
Stage 5	Jeeves and Friends [S]
Stage 6	Cold Comfort Farm [new]
	Decline and Fall [new]



New titles in red

[S] Short Stories

[A+] Available on cassette

Stage 1	Stage 2	Stage 3	Stage 4	Stage 5	Stage 6
400	700	1000	1400	1800	2500
headwords	headwords	headwords	headwords	headwords	headwords
present simple					
present continuous					
imperative					
can/cannot, must					
going to (future)					
past simple					
simple gerunds					
present perfect					
will (future)					
(don't) have to, must not, could					
comparison of adjectives					
simple time clauses					
past continuous					
tag questions					
ask/tell + infinitive					
should, may					
present perfect continuous					
used to					
past perfect					
causative					
relative clauses					
indirect statements					
past perfect continuous					
passive (simple forms)					
would conditional clauses					
indirect questions					
relatives with where/when					
clauses of purpose, reason, contrast					
gerunds after prepositions/phrases					
future continuous					
future perfect					
passive (modals, continuous forms)					
would have conditional clauses					
modals + perfect infinitive					
so/such ... that result clauses					
passive (infinitives, gerunds)					
advanced modal meanings					
clauses of concession, condition					

	Stage 1	Stage 2	Stage 3	Stage 4	Stage 5	Stage 6
	400	700	1000	1400	1800	2500
	headwords	headwords	headwords	headwords	headwords	headwords
STEP (英検)	3~4		pre-2		2	pre-1 & 1
TOEIC		310	310~380	380~450	450~530	590~
TOEFL			~400	400~460	460~530	530~
IELTS	~2.5	2.5~3.5	3.5~4.5	4.5	5.0~5.5	6.0~
Cambridge	Young Learners		KET		PET	FCE CAE CPE

【資料2】

The Monkey's Paw

Suddenly, he saw a face at the window.

old man saw a face at the window. Quickly, he looked again, but there was nothing there. He felt afraid. Slowly he stood up and left the cold, dark room.

Chapter 4

The next morning the winter sun came through the window and the house felt nice and warm again. Mr White felt better and he smiled at his wife and son. The family sat down to have breakfast and they began to talk about the day. The monkey's paw was on a

20

【資料3】

Dead Man's Island

'No!' said a voice behind me.

I turned round and saw Mr Ross. He was standing in the doorway. He looked . . . afraid.

'I don't believe you!' I said.

'You have to believe me!'

I looked at the posters. 'Who is that, if it's not you?'

'It's Jake Rosso. He was . . . my brother.'

'That's not true!' I shouted. 'I don't believe you. Listen, Jake Rosso was my favourite singer – I had hundreds of photos of him. I still have all his records. I *loved* him, do you understand? Thousands of people loved him.'

'He's dead,' Mr Ross said quietly.

'No!' I shouted. 'You're Jake Rosso! You look different now, yes. You've got short hair, you've got a moustache now, and you wear glasses. But you're . . . Jake . . . Rosso. You were my favourite pop star, so I *know*.'

Mr Ross said nothing, and watched my face.

'He doesn't know what to do,' I thought. 'He knows I don't believe him, and he's afraid.'

Then he said, 'It was you in the passage last night, wasn't it?'

'Yes,' I answered.

He looked angry. 'I was wrong to give your mother a job,' he said. 'I thought it was OK because you came from Hong Kong. And I needed help with my work. I needed a good secretary.'

32

The Monkey's Paw

'I'm going to work,' Herbert said.

little table near the window, but nobody looked at it and nobody thought about it.

'I'm going to the shops this morning,' Mrs White said. 'I want to get something nice for dinner. Are you going to come with me?' she asked her husband.

'No, I'm going to have a quiet morning. I'm going to read,' her husband answered.

'Well, I'm not going to go out this evening,' Herbert said, 'so we can go to bed early tonight. We were very late last night.'

'And we aren't going to have stories about monkeys' paws!' Mrs White said. She was angry. 'Why did we

21

A Dead Man

'You're Jake Rosso!' I shouted.

'Does your other secretary know who you are?' I asked. 'Do the other people on the island know?'

Mr Ross didn't answer, but walked across to the window. He was thinking.

33

【資料4】

3年英語A 夏休み宿題テスト

【1】下の1～10の絵を説明している英文を、a～jの中からそれぞれ選びなさい。










- a Suddenly I saw a face at one of the windows.
- b 'Mr Ross doesn't like visitors to the island,' Tony said.
- c I knew my mother was angry but I didn't care.
- d 'Hey! What are you doing?' I said. 'You'll spoil my film.'
- e Greta Ross was waiting for us.
- f London was interesting and exciting, and I began to forget the bad times in Hong Kong.
- g Greta Ross looked angry. 'That room is private,' she said.
- h I was happy in Hong Kong.
- i Mr Ross hid the key in the plant pot next to the door.
- j 'Who does he look like?' I thought.

1 →	2 →	3 →	4 →	5 →
6 →	7 →	8 →	9 →	10 →

科	年	番	氏名	得点	/100
---	---	---	----	----	------

【2】下の a～g の絵の人物名を左上から選んで点線の上に書き、また 1～28の各人物を表す文章の番号を□内に4つずつ書きなさい。(同じ番号の複数回の使用は不可)

(例) Carol Sanders

Greta Ross Jake Rosso Mr Duncan Mrs Sanders Mr Ross Carol Sanders Tony Duncan	 □ □ □ □	 □ □ □ □	 □ □ □ □
 □ □ □ □	 □ □ □ □	 □ □ □ □	 □ □ □ □

1 Is about thirty.

2 Carol liked him.

3 Is brown from the sun.

4 Has short hair.

5 Liked the Rolling Stones..

6 Has a teenage daughter.

7 Has dark hair.

8 Is a businessman.

9 Likes gardening.

10 Looks like Mr Ross.

11 Had long hair.

12 Was married to a businessman in Hong Kong.

13 Takes people to the island.

14 Is about thirty.

15 Likes swimming and painting.

16 Is a gardener.

17 Is a secretary.

18 Died in a car accident.

19 Wears glasses.

20 Wears a hat and boots at work.

21 Owns a business.

22 Was a singer.

23 Likes horse riding.

24 Married to the housekeeper.

25 Takes Carol's film.

26 Husband died in a plane crash.

27 Has long dark hair.

28 Father died in an air crash.

配点 計100点
【1】20点(2点×10) 【2】30点(1点×30)
【3】20点(完全解答) 【4】30点(3点×10)

【資料5】

Rapid Reading (1)

gentlemen or ladies from ages past. One of them looked just like his wife.... "Honey!" he shouted loudly. "Come here; guess what I've found!" "No sir, don't call her. It won't do any good now, anyway. You see, she's come home. Her home has called her here. She won't need to walk here at night any more, because now she is here. I'm afraid you'll have to go back to America alone."

And alone he did return. He never saw his wife again. He hired a detective, he went to the police, all in vain. But when he got back to the States, he told this story to a reporter friend of his, who, in turn, told others who worked in Britain. They went to find the house; they wanted to clear up this mystery. They believed the wife had probably just run away: if she hadn't, at least they would be able to interview the servants and the butler.

They followed the road directions exactly. But there was no house there.... It had gone.

The husband died soon after. Before he did, though, he gave the photographs of the house he had

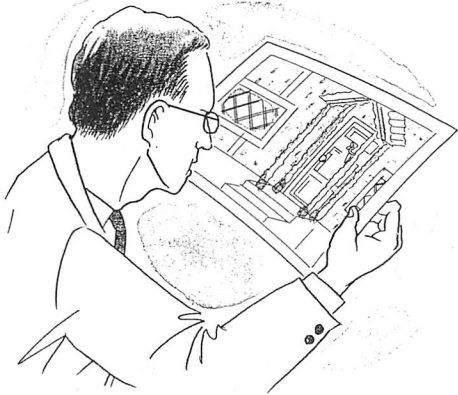
anyway [éni(:)wèi] vain [véin] reporter [ripɔɹtəɹ] mystery [mɪstəri] direction(s) [dirékʃən(z)]

1. from ages past 是るか昔の 4. won't do any good 役に立たないだろう 12. in turn 次々に 14. clear up ~ ~を解く 15. if she hadn't (run away) (仮定法過去完了) 19. had gone 消えてしまっていた

Rapid Reading (1)

taken to the reporter. The husband was very pleased with one photograph. He had taken it outside the house, in front of the door, before they had rung the bell. The reporter looked at it, and put it in a drawer. He wondered why the picture was so special.

A few months later, looking through his drawer, he came across the photo again. "Funny," he said to himself, "I thought there was a lady in this picture...."



drawer [drɔɹ]

1. was very pleased with ~ ~をとっても気に入っていた 8. came across ~ ~をふと見つけた

【資料6】

The Power Lies in the Wind

When you think of a desert, you usually think of large empty spaces. When Californians see the same landscape, they think of wind power.

Driving through the desert area near Palm Springs in Southern California can be a strange experience. For part of the year, this region's 3,800 windmills don't even make a sound.

When the winds pick up speed, they get loud as the windmills turn continuously through the area known as the San Geronimo Mountain Pass.

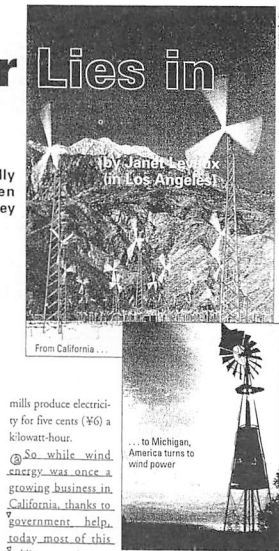
The noise is nature's way of telling us that the wind is a powerful source of energy. In the San Geronimo Pass, windmills produce 750 million kilowatt-hours of energy each year. Most of that energy is generated in the early summer when the extreme desert heat generates strong winds.

This electricity is collected by private companies that manage 14 wind parks, also called wind farms, near Palm Springs. They sell the energy to the local electric utility company, Southern California Edison, and it is then sold to consumers in the area.

Today, the windmills in this and two other parts of California (Alamont Pass and Tehachapi) produce about one percent of the state's electricity. If more windmills were developed, they could generate more of the state's electricity needs.

Some people, though, believe windmills take up too much land. However, they would take up just 0.1 percent of all the state's land if they were developed to provide ten percent of the state's energy needs, wind developers say. In the San Geronimo Pass, the windmills operate on just 11.2 square miles (29 square kilometers) of land. In addition, unlike nuclear and electric power plants, windmills don't pollute.

The problem is that utility firms like Southern California Edison, believe it is much cheaper to use energy from power plants. These plants produce electricity for three cents (¥4) per kilowatt-hour, while the largest and most powerful wind-



mills produce electricity for five cents (¥6) a kilowatt-hour.

So while wind energy was once a growing business in California, thanks to government help, today most of this public support is gone.

Wind farms must take whatever price is offered.

"Edison has not issued any new contracts to buy wind energy," says Neal Emmertson of Micon Wind Turbines, a windmill manufacturer. "So no new wind farms have been developed recently."

With not much money around, some farms do not have enough to fix old, broken windmills. On the other hand, there are some farms that have decided to invest money in new, more powerful machines.

This mixed situation should remain for the next few years as U.S. energy markets become more competitive. "The wind farms must get through a tough transition," says Paul Gipes, an energy consultant and author of several books on wind energy.

Mini-World June-July 1987 13

desert: 砂漠, experience: 経験, region: 地域, windmill: 風車, source: 源, generate: 生み出す, utility: 公共設備, consumer: 消費者, develop: 発展する, provide: 供給する, nuclear: 原子力, power plant: 発電所, firm: 会社, government: 政府, public: 公共の, issue a contract: 契約する, fix: 修理する, manufacturer: 製造者, invest: 投資する, remain: そのままの状態である, competitive: 競い合って, transition: 過渡期

READING TEST 3年 科 番 氏名

◆左の文に関して、次の問いにすべて日本語で答えなさい。

(辞書を引きすぎると、時間が足りなくなるので注意！)

Q1 What do Californian people imagine when they see a desert?

Q2 下線部①を訳しなさい。

Q3 Why is most of that energy generated in early summer?

Q4 How does the electricity made by wind energy reach the consumers?

Q5 下線部②の意見に対して、筆者はどう反論していますか。

Q6 What problem do the local electric utility companies have?

Q7 下線部③を訳しなさい。

Q8 下線部④を具体的に説明しなさい。

<配点> 計30点 Q1 & 3⇒3点、その他⇒4点

【資料7】

Success with ENGLISH
ENGLAND'S SUSHI QUEEN

BY HELEN NORTHEAST

Junko Swindley is a modern-day success story. She is a sushi chef, and owns and operates a popular sushi restaurant in the heart of London.

In Japan, sushi chefs are usually men. "We don't have female sushi chefs," Junko says. "It would be very difficult for me to get a job as a sushi chef in Japan. You never see a female chef because they argue that a woman's hands are too warm to make good sushi." So how did Junko manage to break through this barrier and become such a success?

She was lucky—as a young girl, she learned all the tricks of the trade in her father's restaurant.

"When I was 16 years old I watched the apprentices and the sushi chef at work. Usually a sushi chef never actually teaches the apprentices; they just watch and learn. The chefs keep all their secrets to themselves. But I was a young girl and the sushi chef treated me like his daughter. He taught me everything."

It takes years of training to be able to prepare sushi, and Junko started her apprenticeship by washing the rice. For three years she was not even allowed to touch a knife! But now she is a master and prepares beautiful,



Junko welcomes a couple of regular customers

Finding a location for a restaurant in central London was extremely difficult. They finally found a place near Victoria Station, but they are not allowed to cook there. Junko makes the rice, miso soup and other cooked foods at home and brings them to the restaurant in a refrigerated van. She also keeps busy buying fresh ingredients for the sushi every day.

As the only female sushi chef in Britain, Junko has attracted the interest of British television. She will soon be the subject of a documentary film and will also star in her own television cooking series about sushi. Junko Swindley will soon become a household name in Britain.

If you visit London, drop in and say hello to Junko!

Ichi Riki Sushi House
178 Stratton Ground, London SW1P 2HY
Tel: 0171-233-1701
Open Monday to Friday only
Hours: 12 noon-3:30 p.m. and 6:00 p.m. to late.
Closed Saturdays, Sundays and public holidays.

October-November 1989 MINIWORLD 15

※ female: 女性の, argue: 主張する, trick: 秘訣, trade: 商売, treat: 扱う
attracted: ひきつける, extremely: とても, refrigerated van: 冷蔵庫車
ingredient: 材料, subject: 題材, star: 主演する

《リーディング・テスト》

氏名 小計 /30

◆英文記事 "ENGLAND'S SUSHI QUEEN" に関する次の各問いに、すべて日本語で答えなさい。

Q1 Why is it difficult for women to become a sushi chef?

Q2 What was lucky for Junko when she wanted to be a sushi chef?

(1)

(2)

Q3 What does the word "apprentice" mean?

Q4 What kinds of people often come to Junko's restaurant in London?

Q5 What work did Junko do in Tokyo before she moved to England?

Q6 What difficulties does Junko have about her work now?

(1)

(2)

Q7 下線部(Junko has attracted...)の具体例を2つあげなさい。

(1)

(2)

5. 授業結果と考察

5. 1 The Monkey's Paw

昨年度の聞き取り理解で実施したシドニー・シェルダン作のストーリーは、話の展開のスリリングさと結末の意外性、そして各声優の表現力に満ちた朗読が好評であったが、肝心の英文テキストの文章レベルや読むスピードの速さの点で、学生にはかなり難しかった。

それに対してこの物語は、ストーリーの面白さと英文の理解しやすさ、そのどちらの点でも学生に好評であった。音声だけによる導入でも、多くの学生が1, 2回聞いただけで大体の内容をつかむことができた(ワークシートの正答率は70~80%)。聞き取れると自信もついたようだ。次への意欲もわき集中力もいっそう高まるという好循環が生まれた。

物語の内容がどれほど理解できても、ストーリー自体が面白くなければ意欲や集中度が継続しないこともある。だが学生の反応から、物語の展開に非常に興味を持って取り組んでいることも感じ取れた。「こんな面白い授業は始めて。これが終わったら、また別の話でやってほしい。」「俺でも、わかるよ。わかると英語も面白いもんだね。何かやる気出てきたよ。」などと言ってくれた学生もいた。このストーリーならば多分学生にうけるだろうと、ある程度は予測していたが、実際にそれが的中して我々の喜びも大きかった。

昨年度のもうひとつの失敗は、最初から17分のテープを全部一気にかけてしまったため(しかもテスト形式で)、途中でかなりの脱落者を出してしまったことだ。その反省に基づいて今回は、物語を8つのパートに分けて少しずつ進めることにした。1つのパート当たりテープで約5分。文章が易しかったこともあり、脱落者は皆無だった。

また、ワークシートをテスト形式にして回収採点したのも、緊張感を保つのに良かったと思う。たまた、ほとんど記入せずに提出する学生もいたが、赤ペンで叱咤激励の言葉を書いておくと、その次の時には解答欄を必死になって埋めて提出した。

5. 2 Dead Man's Island

この物語をリーディング教材にして、夏休みの課題を出した。休み明けの課題提出状況は非常に良好であり、内容的にもしっかりと書けているものが多かった。それを受けて実施した確認テスト

の結果は下記の通りである。クラス間やクラス内での得点のばらつきがやや大きかったが、90点台に達した者も各クラスに10名前後いるなど、全体的にはかなり満足のいく結果であった。

また指導用補助教材から出題したイラスト当て問題は、その設問形式が学生には非常に新鮮で興味深く映ったようだ。このような遊び感覚に溢れたテスト問題が、もっとあっても良いのではないだろうか。Oxford University Press 作成のこのActivity Worksheets の出色の出来ばえを再確認した。今後も様々な形で活用していきたい。

	M 3	E 3	J 3	S 3	K 3	全体
平均	82.5	63.9	79.8	70.5	79.8	75.3

5. 3 The Ghost and the Dreaming Lady

前記のOxford Bookwormsの2作が、1年生や2年生でも十分に使用できる易しいものだったので、今度はレベルアップを図って教科書の速読用テキストに挑戦させてみた。しかし聞き取り理解主導で行なうには難しかった。

また、この課は予習はしないようにという指示を出してすすめた。The Monkey's Pawの時は、その日の授業で消化する分だけのテキストを配布して進めたので、予習のしようがなかったのだが、こちらは教科書なので予習はしようと思えば可能である。だが、授業時に初めて読む(聞く)英文テキストをその場で即読(即聴)即解させるのが私たちの意図であった。

実際に教科書の読みが始まると、ワークシートの設問への答えの記入や、ストーリー展開のミステリアスなことが、学生の興味をかき立て集中力を引き出したのであろう。学生の側には、ふだんの予習を前提として進められる、どちらかといえば受け身的な授業の時にはあまりない緊張感が感じられた。

ワークシートを使つての理解度確認テストの正答率は40~60%ぐらいで、文字テキストを十分に見ながらの解答であったにもかかわらず、Oxford Bookwormsによる前回、前々回の時よりも理解度は低かった。英文テキストの文章レベルの高さが大きな原因と考えられる。

5. 4 定期試験でのリーディングテストの結果

常々私たちは学生に次のようなことを言っている。「授業ですでに学習した教科書から出題される問題は、断片的に色々なことを暗記すればある

程度は点がとれる。だがそのような問題ばかりでは、本当の英語の実力は計れない。初めて見る英文テキストを自力でどれほど理解できるかで、その人の英語力（もちろんリーディング力に限定してだが）がわかる。これまでの英語学習の蓄積がそこに表れるはずだ。」

そのような理由で2年前から、3年生の中間試験と期末試験の中で、30点配点のリーディングテストを実施している。このような形式のリーディングテストは非常に意義があり評定にも加えるべきだという考えから、あえて定期試験の中に組み込んでいる。もちろん既習の教科書の範囲からも出題するので、本校の従来の英語の試験時間から見れば異例（他校では珍しくないようで、120分で実施の高専もある）の70分で実施している。

このリーディングテストの結果は次の通りである。参考のために、昨年度と今年度のデータを併記しておく。

	M 3	E 3	J 3	S 3	K 3	平均
(今年)						
前期中間	18.0	16.1	不明	14.8	不明	16.3
前期期末	19.8	18.2	19.8	18.3	19.4	19.1
(昨年)						
前期中間	8.4	5.0	9.2	9.1	8.2	8.0
前期期末	15.2	8.5	17.2	15.2	10.2	13.3

〈英文テキストのトピック〉

(今年)	
前期中間	前園真聖のブラジルでのサッカー修行
前期期末	ロンドンで寿司を握る日本人女性
(昨年)	
前期中間	アメリカの風力発電事情
前期期末	世界の奇妙な法律の話

昨年と今年とでは試験の実施方法に多少の違いがあった。昨年は実施時間の70分を完全に2部に分け、前半の45分を教科書から出題の問題、後半の25分をリーディングテストとし、後半のみ辞書の使用を認めた。それに対して今年は、2部に分けずに70分間通しで実施し、辞書の持ち込みは認めない代わりに、多くの学生が知らないだろうと判断される語には訳注を付けた。また、リーディングテストに使用した英文テキストや設問形式が昨年と今年では異なっていたことも念頭に置いて考察をすすめたい。

今年平均点が大幅に上がった理由を、単純に学

生の英語力が上がったからだと考えるのは早計であるが、私たち出題者の問題作成の技術（適切なトピックの選定、適切な設問など）が、昨年度の反省を踏まえて上達したとは言えるだろう。

今年は2回とも平均点が満点（30点）のほぼ50～65%に達している。この意味することは、テストレベルが適切であった今年の学生は、無力感を抱くことなく解答への意欲が高かったことである。平均点が20～30%ほどでは学生のやる気を削ぐばかりである。

また私たちにとっては、「リーディング力向上のためのリスニング指導」の成果が昨年よりも上がって、それがリーディングテストの好結果に表れたと考えたいところだが、データには妥当性が欠けているので残念ながら断定はできない。

6. ま と め

まとまった量の英文を正確かつ迅速に読む能力は、英語力全体のレベルアップに不可欠な基本的要素である。学生のリーディング力を高めるために昨年今年と私たちは、リスニングを手段として用いて「聞く」ように「読む」方法を学生に提示してきた。

昨年との最も大きな違いは、授業時の聞き取り理解でも定期試験のリーディングテストでも、学生たちに頑張ろうという強い意欲が感じられたことだ。始めは易しい教材（The Monkey's Paw）を与えて自信と意欲を持たせ、少しずつ負荷を上げレベルアップしながら実力をつけさせるという試みが、かなり成功したのではないと思う。

定期試験でのリーディングテストの出題についても昨年のような不満はほとんどなく、私たちの考えが理解され浸透してきた結果といえよう。

また今回の中心教材のOxford Bookwormsが、私たちの意図する「リーディング力向上のためのリスニング指導」に大きな効果を発揮することもわかった。今後は、例えば1, 2年生でStage 1, 2の聞き取り理解に取り組みせ、そして3年生ではStage 3, 4に進ませるなど、5年間を見通して計画的にこのシリーズを活用していきたい。そうすれば、従来よりも格段に多量の英文インプットが可能になり、学生の総合的な英語力もいっそうレベルアップするであろう。

使用教材

- ・ Oxford Bookworms BLACKSERIES
 “The monkey’s Paw”
 Oxford University Press 1989
- ・ Oxford Bookworms BLACKSERIES
 “Dead Man’s Island”
 Oxford University Press 1991
- ・ Active English II
 “The Ghost and the Dreaming Lady”
 一橋出版 1998

参考文献

- ・ 谷口賢一郎「英語のニューリーディング」
 大修館書店 1992
- ・ 金谷 憲「英語リーディング論」
 桐原書店 1995
 (平成11年11月30日受理)